

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「あおぞら・新グローバル・プレミアム・ファンド（当初漸増期間付、限定追加型）2024-01「愛称 ぜんぞうプラス2401」」は、去る10月21日に第1期の決算を行いましたので、法令に基づいて運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

■本ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2045年10月20日まで
運用方針	実質的に日本を含む世界の株式および債券に広く分散投資を行うことで、インカムゲインの獲得と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。
主要投資対象	以下の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 ・アイルランド籍外国証券投資法人（円建て） ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー エマージング・マーケット・バリュエーション・ファンド ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド
運用方法	①主として、日本を含む世界の株式（新興国の株式を含みます。）（以下「グローバル株式」といいます。）を主要投資対象とする別に定める投資信託証券および日本を含む世界の債券（以下「グローバル債券」といいます。）を主要投資対象とする別に定める投資信託証券に投資を行います。 ②株式の実質的な組入比率を計画的に段階的に引上げることで、買付時期の分散を図ります。 ③投資信託証券の組入比率は原則として高位を保ちます。なお、投資対象資産毎の投資信託証券への配分比率は下記の通りとすることを基本とします。 ・グローバル株式を投資対象とする投資信託証券への配分比率の合計：設定当初は純資産総額の概ね5%程度から開始し、1年後に純資産総額の概ね60%程度とします。 ・グローバル債券を投資対象とする投資信託証券への配分比率の合計：設定当初は純資産総額の概ね95%程度から開始し、1年後に純資産総額の概ね40%程度とします。
分配方針	分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額の範囲とし、収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額等の場合は分配を行わない場合があります。なお、長期的な信託財産の成長に資するため、収益分配金は少額に抑えることを基本とします。

あおぞら・新グローバル・
プレミアム・ファンド
(当初漸増期間付、限定追加型)

2024-01

愛称

ぜんぞうプラス 2401

運用報告書（全体版）

第1期

決算日
第1期 2024年10月21日



あおぞら投信株式会社

AOZORA

東京都千代田区麹町6-1-1

■ホームページアドレス

<https://www.aozora-im.co.jp/>

■お問い合わせ先

<お問い合わせ窓口>

050-3199-6343

受付時間：

営業日の午前9時から
午後5時まで

*お取引内容等につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	税 込 金	期 騰 落 中 率	投 資 信 託 率 証券比率	純 資 産 額
		分 配	率		
(設 定 日) (2024年1月31日)	円 10,000	円 -	% -	% -	百万円 2,405
1 期 (2024年10月21日)	10,259	0	2.6	100.0	31,319

(注1) 設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

(注2) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注3) 本ファンドは複数の投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。本ファンドは、日本を含む世界の株式および債券に、市場における代表的なインデックスよりも広く分散投資を行うことを基本としております。このため、本ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	投 資 信 託 率 証券比率
		率	
(設定日) 2024年1月31日	円 10,000	% -	% -
1 月末	10,000	0.0	-
2 月末	10,017	0.2	99.8
3 月末	10,044	0.4	99.9
4 月末	10,056	0.6	100.0
5 月末	10,107	1.1	100.0
6 月末	10,189	1.9	100.1
7 月末	10,081	0.8	99.8
8 月末	9,982	△0.2	99.9
9 月末	10,014	0.1	99.9
(期 末) 2024年10月21日	10,259	2.6	100.0

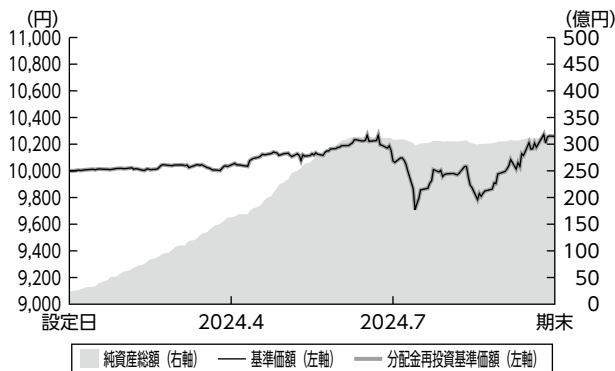
(注1) 設定日の基準価額は、設定価額を記載しています。

(注2) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定日比です。

(注3) 本ファンドは複数の投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。本ファンドは、日本を含む世界の株式および債券に、市場における代表的なインデックスよりも広く分散投資を行うことを基本としております。このため、本ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

■運用経過 (2024年1月31日～2024年10月21日)

基準価額の推移



第1期首：10,000円
第1期末：10,259円 (既払分配金0円)
騰落率：2.6% (分配金再投資ベース)

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客さまの損益の状況を示すものではありません。

* 分配金再投資基準価額は、設定日 (2024年1月31日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

* 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、当期末において10,259円となり、当期のリターンは2.6% (信託報酬控除後) の上昇となりました。

当期は、期初の主要中央銀行による利上げ打ち止めや早期利下げ観測が台頭する中、生成A I (人工知能) 向け半導体需要への期待や、底堅い経済指標を背景に景気のソフトランディング (軟着陸) 期待が高まりました。期末にかけて、中東情勢の緊迫化が警戒されたものの、中国の追加景気刺激策や好調な企業業績が好感され、先進国株式市場および新興国株式市場の上昇がプラス寄与となりました。一方で、当期後半には主要中央銀行の利下げがあったものの、中東情勢の緊迫化や堅調な米経済指標を背景に、先進国債券の短期債利回りと長期債利回りはまちまちとなりましたが、当期前半に債券利回りが上昇したことがマイナス寄与となりました。ドル円為替レートは円安となったため、為替ヘッジを行っていない株式部分において、基準価額にプラス寄与となりました。

投資環境

当期の先進国株式市場は上昇しました。当期初は米労働市場の底堅さが確認されたことに加えて、米CPI (消費者物価指数) とPPI (卸売物価指数) の伸びが期待ほど鈍化しなかったことや、FRB (米連邦準備理事会) およびECB (欧州中央銀行) 高官から早期利下げに慎重姿勢が示されたことが重石となった一方で、生成A I向け半導体需要への期待や、好調な企業決算を背景に上昇基調となりました。ただ、インフレ高止まりへの警戒から主要中央銀行による利下げ開始が先送りされるとの観測が強まる中、中東情勢の緊迫化や生成A I向け半導体需要への過度な期待が後退し、4月半ばには調整する場面もありました。米大統領選挙や欧州政治を巡る不透明感、中国の景気減速懸念が嫌気されたものの、ECBが利下げを開始したことに加えて、米労働市場の減速や米CPIの伸びが鈍化したことを背景に、FRBによる早期利下げ観測が台頭したことが支えとなりました。8月初には、米景気減速懸念を背景に投資家のリスク回避姿勢が強

まったことから、世界的に大幅下落となりましたが、その後発表された堅調な米経済指標を受けて急速に持ち直したほか、ECBが追加利下げを決定し、FRBも4年半ぶりに大幅利下げを決定したことから、景気のソフトランディング期待が追い風となりました。期末にかけては、中東情勢の緊迫化やインフレ再燃が重石となったものの、中国の追加景気刺激策への期待や、好業績銘柄の上昇が支えとなり、先進国株式市場は上昇基調を維持しました。

新興国株式市場は上昇しました。不動産不況をはじめとする中国景気の先行き不透明感が重石となった一方で、AI関連の半導体需要増加への期待のほか、中国政府による不動産関連の規制緩和や資本市場支援策への期待から当期半ばにかけて上昇しました。その後も、先端半導体を巡る米中対立激化への警戒感や、米中景気の後退懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まり、大幅調整する局面が見られたものの、堅調なグローバルハイテクセクターや、過度な米景気後退懸念が和らいだことに加えて、中国政府による追加の景気刺激策／市場支援策への期待が支えとなり、新興国株式市場は上昇しました。

先進国中短期投資適格債券利回りは低下（価格は上昇）しました。米国では、米労働市場の底堅さが確認され、インフレ高止まり懸念が再燃する中、パウエルFRB議長をはじめ、FRB高官から早期利下げに慎重な発言が相次ぎ、FRBの利下げ開始の先送り観測が強まると、米国債券利回りは当期半ばにかけて上昇しました。その後、労働関連指標やインフレ指標が鈍化する中、パウエルFRB議長が9月利下げ開始を示唆するなど、年内利下げ開始観測が強まり、利回りは低下基調となりました。8月初には、米景気後退懸念を背景に、FRBによる年内大幅利下げ観測が強まると、欧米主要中央銀行の利下げが相次ぐ中、9月FOMC（米連邦公開市場委員会）で4年半ぶりとなる0.5%の大幅利下げが決定されました。その後、米労働市場の堅調さが確認されたことから11月FOMCでの追加利下げ観測が後退したことが利回り上昇要因となり、米国債券利回りは低下幅を縮小しました。

欧州では、軟調なユーロ圏経済指標や中国景気の先行き不透明感を背景に、域内景気の減速懸念が根強いものの、ECB高官から早期利下げ観測をけん制する発言が相次ぎ、当期半ばにかけて利回りは上昇しました。その後は、スイス中央銀行が主要中央銀行の先陣を切って利下げを実施したことに加え、6月にはECBも4年9ヵ月ぶりに0.25%の利下げを実施したものの、ラガルドECB総裁が政策金利のガイダンスを示さなかったことがタカ派的な緩和と受け止められました。しかし、米景気減速懸念を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まったことから利回りが大きく低下したことに加えて、域内の軟調な経済指標が続く中、9月にECBによる追加利下げや、スウェーデン中央銀行やスイス中央銀行の追加利下げを受けて、利回りは低下基調となりました。ただ、中東情勢の緊迫化が投資家心理の重石となったほか、堅調な米経済指標を背景に米金利が上昇したことから、欧州債券利回りも低下幅を縮小しました。

ドル円為替レートは期中乱高下が見られた中、円安となりました。当期は146円台後半で始まった後、パウエルFRB議長をはじめFRB高官が利下げに慎重な姿勢を示すなど、米インフレ高止まりを背景にFRBの利下げ開始先送り観測が強まった一方で、日銀がマイナス金利解除やイールドカーブ・コントロール（YCC、長短金利操作）撤廃を決定しつつも、緩和的な金融環境の継続を示唆すると、日米金利差が意識されて当期半ばにかけて円安基調となりました。その後、日銀による長期国債の買い入れ減額が先送りされると、一時37年半ぶりに161円台まで円安が進みましたが、政府／日銀による円買い介入と見られる動きや

日銀による追加利上げを受けて、円が急伸びしました。当期末にかけては、F R Bが大幅利下げを決定したことや中東情勢の緊迫化が円高要因となった一方で、堅調な米経済指標が相次いだことを背景に、より緩やかなF R Bによる利下げペースになるとの見方から150円台まで円安が進みました。

当該投資信託のポートフォリオ

本ファンドでは当初の運用方針通り、3つの組入れファンド（先進国株式：ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド、新興国株式：同エマージング・マーケット・バリュー・ファンド、先進国債券：同グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド）への投資を通じて日本を含む世界の株式（新興国の株式を含みます。）および債券に広く分散投資を行うことで、インカムゲインの獲得と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いました。

2024年1月31日設定時の債券と株式の組入比率を先進国債券95%：グローバル株式5%（内訳は先進国株式4%：新興国株式1%）でスタートした後、株式への投資比率を漸増させる“ぜんぞう”プランに従って、毎月初、グローバル株式の組入比率を計画的かつ段階的に引き上げました。その結果当期末における目標組入比率は、概ね先進国債券55%：グローバル株式45%（先進国株式：新興国株式の比率は5：1）となっています。

組入れファンドにおける当期の運用状況は以下の通りです。

<ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド>

投資対象銘柄において、3つの側面（＝ディメンション、相対株価が低いこと、時価総額が下位であること、収益力が高いこと）に対する傾斜度合いを相対的に高めながら、広範に分散投資することによって、期待リターンの向上を目指しました。2024年9月末時点で、先進25カ国の8,066銘柄に分散投資しています。

<ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー エマージング・マーケット・バリュー・ファンド>

投資対象銘柄において、3つの側面（＝ディメンション、相対株価が低いこと、時価総額が下位であること、収益力が高いこと）に対する傾斜度合いを相対的に高めながら、広範に分散投資することによって、期待リターンの向上を目指しました。2024年9月末時点で、新興23カ国の3,513銘柄に分散投資しています。

<ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド>

投資対象銘柄において、2つの側面（＝ディメンション、期間プレミアム*①、クレジット・プレミアム*②）に着目しながら、期待リターンの向上を目指しました。2024年9月末時点で、先進14カ国の292銘柄に為替をヘッジした上で分散投資しています。

*①期間プレミアム：債券の償還期限の長さを源泉とする期待収益、*②クレジット・プレミアム：債券発行体の信用度を源泉とする期待収益

当該投資信託のベンチマークとの差異

本ファンドは運用の目標となるベンチマークや参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

分配金（1万口当たり、税引前）

本ファンドの運用の基本方針において、「本ファンドは長期的な信託財産の成長に資するため、収益分配金は少額に抑えることを基本方針とします。」としています。この基本方針に従い、当期は無分配といたしました。

留保金の運用については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円・%、1万口当たり、税引前)

	第1期	
	自 2024年1月31日	至 2024年10月21日
当期分配金		—
（対基準価額比率）		—
当期の収益		—
当期の収益以外		—
翌期繰越分配対象額		270

(注1) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

株式比率を段階的に引き上げる“ぜんぞう”プランに従って、2025年1月初にかけて、概ね先進国債券40%：グローバル株式60%（内訳は先進国株式50%：新興国株式10%程度）となるまでグローバル株式の組入比率を上げます。

■ 1万口当たりの費用明細 (2024年1月31日～2024年10月21日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	61	0.61	(a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率 期中の平均基準価額は10,054円です。
(投信会社)	(28)	(0.283)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(30)	(0.303)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.02)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	1	0.005	(b) その他費用 = $\frac{\text{[期中のその他費用]}}{\text{[期中の平均受益権口数]}}$
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.003)	目論見書等の法定書類の作成・印刷・届出および交付に係る費用ならびにファンドの計理業務およびこれらに付随する業務に係る費用
合計	62	0.61	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

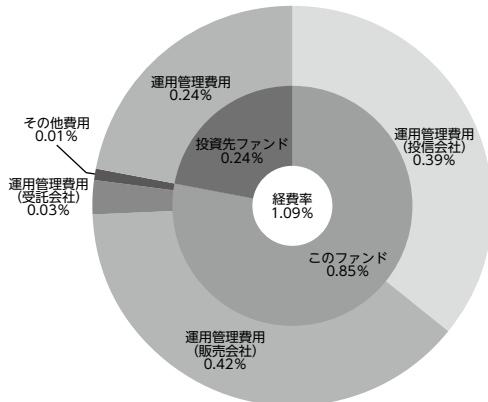
(注3) 「比率」欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

(参考情報)

経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した経費率(年率)は1.09%です。



経費率 (①+②)	1.09%
①このファンドの費用の比率	0.85%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.24%

(注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理費率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注7) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■**売買及び取引の状況** (2024年1月31日～2024年10月21日)
投資信託証券、投資証券

銘	柄	名	買 付		売 付	
			口 数	金 額	口 数	金 額
			□	千円	□	千円
外(アイ ル ラ ン ド)	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー	グローバル・ ショート・フィクスト・インカム・ファンド	31,299,333	25,466,247	10,021,859	8,035,413
	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー	グローバル・コア・エクイティ・ファンド	4,112,510	11,432,859	—	—
	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー	エマージング・ マーケット・バリュール・ファンド	1,447,620	2,285,576	—	—

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

■**利害関係人との取引状況等** (2024年1月31日～2024年10月21日)

(1) **利害関係人との取引状況**

当期中における利害関係人との取引はありません。

(2) **売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率**

当期中における売買委託手数料の支払いはありません。

■**第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況** (2024年1月31日～2024年10月21日)

該当事項はございません。

■**委託会社による自社が設定する投資信託の受益証券の自己取引状況** (2024年1月31日～2024年10月21日)

該当事項はございません。

■**組入資産の明細** (2024年10月21日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ	ァ	ン	ド	名	当 期 末				
					口 数	評 価 額	比 率		
					□	千円	%		
(アイ ル ラ ン ド)	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー	グローバル・	ショート・	フィクスト・	インカム・	ファンド	21,277,474	16,919,209	54.0
	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー	グローバル・	コア・	エクイティ・	ファンド		4,112,510	12,049,983	38.5
	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー	エマージング・	マーケット・	バリュール・	ファンド		1,447,620	2,340,367	7.5
	合			計			26,837,604	31,309,560	100.0

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 比率欄は純資産総額に対する比率。

■投資信託財産の構成

2024年10月21日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投 資 証 券	31,309,560	99.8
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	72,743	0.2
投 資 信 託 財 産 総 額	31,382,303	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2024年10月21日) 現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	31,382,303,191円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	72,742,565
投 資 証 券(評価額)	31,309,560,407
未 収 利 息	219
(B) 負 債	62,430,256
未 払 解 約 金	4,220,704
未 払 信 託 報 酬	57,952,776
そ の 他 未 払 費 用	256,776
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	31,319,872,935
元 本	30,529,591,524
次 期 繰 越 損 益 金	790,281,411
(D) 受 益 権 総 口 数	30,529,591,524口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C/D)	10,259円

(注1) 当初設定元本額2,405,501,621円、期中追加設定元本額28,353,132,626円、期中一部解約元本額229,042,723円。

(注2) 1口当たり純資産額は、1.0259円です。

※本運用報告書作成時点において、本計算期間に係るファンド監査は終了していません。

■損益の状況

自2024年1月31日 至2024年10月21日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	552,453,065円
受 取 配 当 金	552,485,599
受 取 利 息	57,158
支 払 利 息	△ 89,692
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	162,036,589
売 買 損 益	673,817,376
売 買 損 益	△511,780,787
(C) 信 託 報 酬 等	△130,800,589
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	583,689,065
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	206,592,346
(配 当 等 相 当 額)	(243,273,099)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 36,680,753)
(F) 計 (D+E)	790,281,411
(G) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F+G)	790,281,411
追 加 信 託 差 損 益 金	206,592,346
(配 当 等 相 当 額)	(243,273,099)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 36,680,753)
分 配 準 備 積 立 金	583,689,065

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(451,318,050円)、費用控除後の有価証券等損益額(132,371,015円)、および信託約款に規定する収益調整金(243,273,099円)より分配対象収益は826,962,164円(10,000口当たり270円)ですが、当期に分配した金額はありません。

■分配金のお知らせ

	第	1	期
1 万口当たり分配金(税込み)			0円

- (注1) 分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合
分配金は全額普通分配金となります。
- (注2) 分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合
分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。
- (注3) 分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合
分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

お知らせ

2024年11月5日以降、原則として、換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。

■指定投資信託証券の運用状況

- (注1) 指定投資信託証券の運用状況データは2024年9月30日現在のもので、本データは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズからの情報を基に委託会社が作成したものです。
(注2) 各項目の比率は、指定投資信託証券の資産総額に対する割合です。また、各項目の比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。以下、本ページにおいて同じ。

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド

○組入上位5銘柄

	銘柄名	国	業種	比率
1	アップル	米国	情報技術	3.2%
2	エヌビディア	米国	情報技術	2.9%
3	マイクロソフト	米国	情報技術	2.7%
4	アマゾン・ドット・コム	米国	一般消費財・サービス	1.7%
5	アルファベット	米国	コミュニケーション・サービス	1.5%
組入銘柄数			8,066銘柄	

○国別構成比

国	比率
米国	70.5%
日本	6.6%
英国	3.8%
カナダ	3.3%
フランス	2.4%
その他	13.4%
現預金等	0.0%
合計	100.0%

(注) 国は組入銘柄のリスク所在国を示しています。(該当投資顧問会社による定義)

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー エマージング・マーケット・バリュー・ファンド

○組入上位5銘柄

	銘柄名	国	業種	比率
1	アリババ・グループ・ホールディング	中国	一般消費財・サービス	3.3%
2	リライアンス・インダストリーズ	インド	エネルギー	2.9%
3	鴻海精密工業	台湾	情報技術	2.1%
4	中国建設銀行	中国	金融	1.8%
5	ブラジル石油公社	ブラジル	エネルギー	1.7%
組入銘柄数			3,513銘柄	

○国別構成比

国	比率
中国	25.9%
インド	20.5%
台湾	19.5%
韓国	10.7%
ブラジル	3.6%
その他	19.5%
現預金等	0.3%
合計	100.0%

(注) 国は組入銘柄のリスク所在国を示しています。(該当投資顧問会社による定義)

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド

○利回り・特性値

最終利回り	4.39%
平均クーポン	2.27%
平均残存期間	0.14年
デュレーション	0.14年
平均格付	AA+

(注1) 最終利回りは、実際の投資家利回りとは異なります。なお、ヘッジコストは-4.47%程度です。

(注2) デュレーションとは、金利の変化に対する債券の価格感応度を示す指標で、単位は「年」で表示されます。この値が長い(短い)ほど、金利の変化に対する債券価格の変動率が大きく(小さく)なります。

(注3) 平均格付とは、基準日時点での保有債券に係る信用格付を加重平均したものであり、指定投資信託証券に係る信用格付ではありません。

○種別構成比

債券種別	比率
国債/政府機関債	75.6%
社債	2.2%
その他	22.2%

○格付構成比

格付	比率
AAA	55.8%
AA	43.6%
その他	0.6%

(注) 格付構成は投資顧問会社が定義した分類によるものです。

○国別構成比

国	比率
国際機関	17.7%
米国	12.0%
英国	11.5%
オーストラリア	10.4%
カナダ	9.3%
ドイツ	8.7%
その他	30.4%
合計	100.0%

(注) 国は組入銘柄の発行体の所在国を示しています。(該当投資顧問会社による定義)

○銘柄数

銘柄数	292
-----	-----

<指定投資信託証券の概要>

ファンド名	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド
ファンド形態	アイルランド籍外国証券投資法人(円建て)
投資目的	中長期的な値上がり益の最大化を目指します。
主な投資対象	主に、投資可能と判断される先進国の株式に投資します。その際、割安と判断する株式や時価総額の比較的小さい小型株により比重をおきます。
主な投資制限	①先進国の主要市場で取引されている先進国の株式を主要投資対象とします。 ②先進国で取引されている株式のうち、新興国の株式と判断される株式への投資割合は、原則として信託財産の資産総額の20%を超えないものとします。 ③リスク管理等を目的として、金融派生商品に投資することがあります。その際、為替予約取引および先物取引以外の金融派生商品の利用を目指すものではありません。また実質的な投資比率が資産総額の100%を超えるような取引は行いません。
投資顧問会社	ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッド
管理会社	ディメンショナル・アイルランド・リミテッド
決算日	毎年11月30日

■損益計算書／保有有価証券明細

「ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド」は本ファンドの設定日(2024年1月31日)以降、決算日が到来していないため、開示できる情報はありません。

ファンド名	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー エマージング・マーケット・バリュー・ファンド
ファンド形態	アイルランド籍外国証券投資法人(円建て)
投資目的	中長期的な値上がり益の最大化を目指します。
主な投資対象	主に、投資可能と判断される新興国(下記の投資対象国・地域リスト参照)の上場株式に投資します。その際、主に対象銘柄の時価総額と比較して資産価値が高いと判断される割安株に着目します。加えて、投資顧問会社の判断により預託証券(ADR等)も投資対象に含めることができます。なお、預託証券(ADR等)は以下の投資対象国・地域リスト以外の国・地域を含む場合があります。 「投資対象国・地域リスト」 ブラジル、チリ、中国、コロンビア、チェコ、エジプト、ギリシャ、ハンガリー、インド、インドネシア、イスラエル、マレーシア、メキシコ、ペルー、フィリピン、ポーランド、カタール、サウジアラビア、南アフリカ、韓国、台湾、タイ、トルコ、アラブ首長国連邦 ※投資顧問会社は上記リストを随時見直しできるものとし、ファンドの決算報告書類においてその見直し内容を開示するものとします。
主な投資制限	リスク管理等を目的として、金融派生商品に投資することがあります。その際、為替予約取引および先物取引以外の金融派生商品の利用を目指すものではありません。また実質的な投資比率が資産総額の100%を超えるような取引は行いません。
投資顧問会社	ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッド
管理会社	ディメンショナル・アイルランド・リミテッド
決算日	毎年11月30日

■損益計算書／保有有価証券明細

「ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー エマージング・マーケット・バリュー・ファンド」は本ファンドの設定日(2024年1月31日)以降、決算日が到来していないため、開示できる情報はありません。

ファンド名	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド
ファンド形態	アイルランド籍外国証券投資法人(円建て)
投資目的	投資元本の保全を目指しながら、金利収入獲得の最大化を目指します。
主な投資対象	主として国債、政府機関・国際機関債や投資適格の社債などの先進国の固定金利／変動金利中短期公社債(残存年限5年以内)に為替をヘッジした上で投資することで、為替レートの変動による影響を抑えつつ、安定した収益を目指します。
主な投資制限	①コマーシャル・ペーパーへの投資にあたっては、投資顧問会社において原則Prime 1以上と評価される発行体に投資するものとします。 ②その他の公社債への投資にあたっては、投資顧問会社において原則AA-以上と評価される発行体に投資するものとします。格付がないものについては、運用会社がこれらと同等以上と判断するものとします。 ③リスク管理等を目的として、金融派生商品に投資することがあります。その際、為替予約取引および先物取引以外の金融派生商品の利用を目指すものではありません。また実質的な投資比率が資産総額の100%を超えるような取引は行いません。
投資顧問会社	ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッド
管理会社	ディメンショナル・アイルランド・リミテッド
決算日	毎年11月30日

■損益計算書／保有有価証券明細

「ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・ショート・フィクスト・インカム・ファンド」は本ファンドの設定日(2024年1月31日)以降、決算日が到来していないため、開示できる情報はありません。